

[抄録様式]

| | |
|--|---|
| <p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>令和 3 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p> | |
| 1. 事業名： | 医科歯科連携の事業 |
| 2. 申請者名： | (一社) 会津若松歯科医師会 代表理事 小柴 誠 |
| 3. 実施組織： | (一社) 会津若松歯科医師会 |
| 4. 事業の概要： | <p>地域における医科歯科連携を推進するとともに、病院歯科、大学病院口腔外科との連携を図り、地域全体の連携医療を確立する。その結果、個々の歯科医師のスキルの向上及び、各診療所における連携医療の意識改革及び円滑化に繋がることを目的として本事業を行った。本年度は、追加してリモート診療の可能性についても検証した。</p> |
| 5. 事業の内容： | <p>常勤歯科医師が不在である福島県立医科大学附属会津医療センター歯科に対して、会津若松歯科医師会、会津中央病院歯科口腔医療センター(中央病院)、新潟大学顎顔面口腔外科(大学)での共同により、病院歯科医療のサポートを行った。この事業は会津若松歯科医師会地域歯科医療連携推進臨時委員会(委員長：遠藤秀樹)にて管理した。ハイリスクの観血処置は大学からの派遣医で行ない、難治症例または術後継発症などに対しては中央病院にて後方支援を行った。診療事例を集積し、会員にフィードバックした。方法は、インターネット環境下で、委員会内で検証し、各種配布物や研修会等で会員へフィードバックした。最終的な目標は、地域歯科医療における医科疾患に対する知識及び経験、医科疾患に伴う歯科合併症の経験および対応、医科退院後の管理等のスキルを高くし、円滑な医科歯科連携および病診連携の構築、医療圏全体での有病者歯科、周術期管理等のスキルアップを目指した。加えて、本年度は、会津医療圏におけるリモート診療の可能性についても検証した。</p> |
| 6. 実施後の評価(今後の課題)： | <p>派遣事業については問題なく行われており、当初目標としていた事項についての評価は良好である。ただ、新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たない現時点において、広く会員に対して参加しもらう環境には至っていない。感染状況次第ではあるが、多くの会員に参加してもらい、広く医科歯科連携を含めた地域医療の充実化に向けて展開していきたい。また、この状況下において、リモート診療は有益と考えられ、会津医療圏で検証を行った結果、汎用リモート会議のシステムが利用できること、リモート診療を行うにあたって、口腔内カメラは必須になる可能性が高いこと、口腔内カメラを使用する際、現時点では、有線の方が通信環境などを考慮すると安全であることなどが分かった。今後は、口腔内カメラについてもメーカーなどと共同し、開発していきたい。</p> |